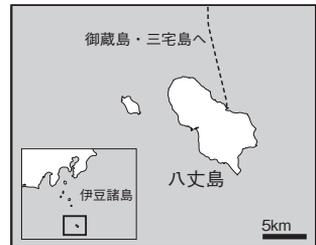


② 八丈島はちじょうじま（東京都八丈町）——八丈高等学校

# 島を支える人材を育む離島留学

東京都八丈町教育委員会 課長 福田 高峰



八丈島：東京の南方海上287kmに位置する、面積69.48km<sup>2</sup>のひょうたん型の島。気候は、黒潮暖流の影響を受けた海洋性気候を呈し、年平均気温18.1度、年間降水量3,200ミリと高温多湿で雨が多いのが特徴。

## ●花き栽培や漁業が盛んな島

八丈島の産業は、農業（花き観葉植物栽培）と沿岸漁業を基盤としています。商工では焼酎やくさや加工、伝統的工芸品の本場黄八丈織きはちじょうおりなどのほか、各種の観光関連サービス業が中心となっています。

人口は、昭和五年の一万二〇〇〇人から一貫して減少しており、平成二七年には八〇〇〇人を切りました。年齢区分は年少人口、生産人口とも割合は減少していますが、老年人口は増えており、高齢化は進んでいます。

## ●園芸科をはじめ三学科を有する伝統校

都立八丈高等学校は、昭和三年に創立した東京の島しょ

（伊豆諸島・小笠原諸島）における伝統校であり、普通科（全日制・定時制）、園芸科、家政科の三学科を有しています。

創立以来、地域から期待、信頼され、八丈島に唯一の高等学校として、歴史と伝統を誇りながらも、情報化やグローバル化に対応した教育環境を構築しています。

都立園芸高等学校八丈分校を前身とし、広大な敷地に温室や実習棟などが整備された充実した環境の下、町の基幹産業である農業を学ぶことができる園芸科では「地域・社会の発展に寄与できる人材を育成する」ことを目標にしています。

家政科では、食物・被服・保育・福祉・情報・住居・消費生活など幅広い科目から選択し、専門性を深める授業を行っています。



八丈高校では、海洋教育や園芸など地域に密着した取り組みが行われている。

普通科では、大学・専門学校進学、就職まで志望する進路選択を実現できるように、習熟度別・少人数指導に取り組んでいます。また、海洋文化（ダイビング資格取得）や郷土芸能（八丈太鼓）、郷土文化（黄八丈織 実習など島ならではの特色のある授業も行っています）。

平成二七年度に東京都教育委員会より理数研究校に指定

され、理数系の生徒の裾野を広げる取り組みが始まりました。

加えて今年度からは「海洋教育パイオニアスクールプログラム」(海を題材とした学習全般に對し必要な資金を提供する制度)の指定を受け、これまでの地域に密着した海洋教育に、世界的な漂着物調査ネット

ワークへの参加などグローバルな視点を加えた取り組みがスタートします。

毎年三月末から四月上旬にかけて「フリージアまつり」が島をあげて開催されます。そのイベントの一つとして「フリージアインフィオラータ(花絵の制作)」があり、八丈高校の多くの生徒が参加しています。フリージアの花を一つ一つ摘み取り、美術部がデザインした花の絵に敷き詰め、役場の多目的ホール「おじゃれ」などで展示し、好評を得ています。また、体育祭や文化祭は、地域の方々が毎年楽しみにしている島の一大イベントです。

### ●教育環境の充実に向けた離島留学の活用

上述のように八丈高校は、島に密着した高校ですが、生徒数は毎年定員を下回る状況が続いています。ほとんどが顔見知りで、生徒同士が切磋琢磨する競争意識が生まれにくいことも課題となっています。

一方、東京都における本土から島しよの高校への進学は、一家転住などが原則であり、本土の生徒が自由に島しよの高校を希望し、進学することができませんでした。

こうした状況を踏まえ、島しよの生徒に対しては、新しい仲間との出会いを通じてさらに成長できる環境を、また、本土の生徒に対しては、恵まれた自然環境にある高校生活の中で成長できる機会を提供したいと考え、都教育委員会、

鳥しよの各町村および各高校が連携し、離島留学の実施に向けて取り組んできたところです。

平成二八年の夏には、都内の中学生を対象にした「鳥しよ体験ショートステイ」を実施し、三世帯八名が来島しました。参加者は、八丈高校の学校紹介や施設見学、海水浴、光るきのこ鑑賞や島内観光などを体験、終了後のアンケートでは、島や八丈高校に好印象を持った方が多数を占めていました。

離島留学は、島外の生徒を受け入れることにより、島の高校教育活動をより充実させることを目的としています。また、地域資源を活用した学習や伝統・文化に触れる機会の提供など、島の特色を生かした学校教育を実施することで、島の魅力を多くの島外者に知ってもらうことも狙いの一つです。町では、島の振興と活性化を図り、将来の島を



昨夏に実施した「鳥しよ体験ショートステイ」の様子。

支える人材の育成を推進することを目標に、地方創生戦略（八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略）の施策として離島留学を盛り込み、平成二九年度の入学生から新たに受け入れるよう、取り組みを進めています。

### ●卒業生が島に帰って来る仕組みづくりを

今後は、留学生を増やすため、ホストファミリーの確保など受け入れ体制の強化が重要となります。現在の留学対象者は都内在住者に限られていますが、裾野を全国に広げることと、それにとまない募集人員を増やしていくことがこれからの課題です。

特に町の基幹産業である農業の振興策として、園芸科の生徒を増やすことが喫緊の課題といえます。

卒業後は大学などに進学する生徒も多く、町ではこれまで貸付型（無利子）の奨学金のみでしたが、今年度より、一定期間島で就業することを条件とした給付型の奨学金制度（Uターン型）も開始しています。離島留学生もこの制度の対象です。

最後に、山下奉也<sup>とみやうり</sup>町長のメッセージを紹介します。

「亜熱帯の大自然や歴史と文化があふれ、人情味豊かな八丈島で、自分さがしの高校生活を過ごしませんか！」 ■

福田高峰（ふくだ たかね）  
昭和40年八丈町生まれ。  
同63年9月八丈町入職。  
平成20年4月町立八丈病院事務長。同23年4月より現職。